

研究分野のキーワード：人体具象彫刻，塑造，粘土，触覚芸術，彫塑教育

研究紹介

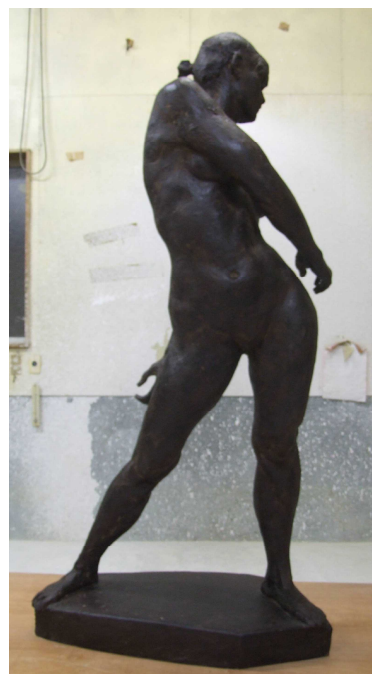
私は彫刻制作と、彫塑（彫刻）教育を軸として研究を重ねています。

彫刻制作では、人を題材として、主に粘土を用いた制作をしています。粘土という素材は、みなさんも使ったことがあるように、とったり、つけたり、ひねったり、伸ばしたり、様々な形を自由自在に試すことができ、量（塊）による表現について研究することに向いている素材の一つです。「どのような形にすると伸びやかに見えるのか」「どのように塊を置いていくと、力強く見えるのか」など、こうするとこうなる、ああするとこうなるといった原理原則を探しながら、粘土を通してモデルと対話し、作品と対話しながら制作しています。

こういった制作活動で得たことを基に、小学校、中学校、高等学校、大学、それぞれの発達段階・到達度に応じた彫塑教育についても研究しています。触覚芸術と言われる彫刻分野の長所を活かし、モノに対して直接的に関わり合い、造形的思考をはたらかせ具現化していく、この一連のプロセスを実体験から学ぶことは、現在の教育にとって最も必要なものの一つであると考えています。



タイトル：楽土を求めて
素材：石膏
サイズ：h195×w57×d89cm
第 89 回白日会展(2013 年)



タイトル：祈人
素材：石膏
サイズ：h200×w90×d55cm
第 42 回日展第 3 科(2010 年)